

## ■活動レポート(事業報告)

## 「みんなあつまれ!はくぶつかん—やってみよう たのしんじゃえ はくぶつかん—」

日時：平成20年9月21日(日) 場所：岩手県立博物館本館、芝生広場、民家、館内など  
学芸第三課 原田 祐参(学芸調査員)

当館では、小学生を主な対象とする教育普及活動を進めています。ここでは今年度初めて実施した「県立博物館まつり」(以下「まつり」と表記します)の事業内容について報告します。

## 1. 「まつり」開催のきっかけ

当館では体験型のプログラムとして、毎週日曜日に「みんなためそう! 体験教室」を実施しています。これは児童が当館解説員の指導を受けながら製作・体験するもので、年間約50種類のプログラムが用意されています。しかし、人数が限られるため、参加したくても出来ない場合があります。そこで、博物館でしか出来ない体験をより多くの児童に味わって欲しいという思いから、普段の「みんなためそう! 体験教室」の規模を拡大し、「まつり」という形で実施することにしました。



こはくの玉づくり



昔あそび

## 2. 「まつり」のコーナー

以下のコーナーを設けました。

## 〈屋外で実施〉

こはくの玉づくり(各回定員30名・有料)、土器づくり(各回定員30名・有料)、化石のレプリカ(各回定員30名・有料)、木の皮細工(各回定員30名・有料)  
火おこし、石臼体験、チャグチャグ馬コ、昔のあそび(民家)、販売コーナー

## 〈屋内で実施〉

変身しよう(体験学習室)、藍染め実験(各回定員20名・無料)

## 3. 当日の様子

「まつり」の当日9月21日(日)は朝から雨が降り続き、あいにくの天候となりました。ほとんどのコーナーは屋外で実施するため、屋内での実施に切り替えることも検討しましたが、予定通り屋外での実施としました。受付の開始時刻は午前9時30分でした。しかし、30分以上前から並んでいた方々もたくさんいらっしゃいました。

雨天ということもあり、屋外のコーナーほとんどを急遽テントの中で実施することになりました。狭い空間の中ではありますが、どの児童も夢中になってこはくの玉づくりにチャレンジしたり、アンモナイトの化石に一生懸命色を塗っている様子に大きな喜びを感じました。

芝生広場で行われたチャグチャグ馬コの体験では、馬と一緒に写真を撮ったり、実際に馬に触れることで、馬の大きさと同時に馬のさまざまな表情を間近で観察することが出来たようです。



チャグチャグ馬コ

「火おこし」コーナーではタイムの計測、「石臼体験」では、出来上がった粉を持ち帰ることが出来るなど、製作のコーナーとは違った楽しみがあり、何度もチャレンジする児童が多く見受けられました。



石臼体験

民家を会場に行われた「昔あそび」コーナーは主に友の会ボランティアが運営し、児童に様々な昔の遊びを教えています。中でも植物のイタドリを利用して作る笛は子どもたちに人気があり、歩きながら音を出して楽しんでいる様子が多く見られました。



火おこし

たくさんのコーナーの中で一番人気といってもいいほどの注目を集めたのは、「火山のふん火実験」でした。ペットボトルや酢など、身近に手に入る材料を使って、ふん火の様子を再現する実験です。緊張感の中で噴火が始まると、小さな子供から保護者の方まで、多くの視線がペットボトルの噴火口に注がれました。

## 4. 終わりに

初めての実施でしたが、多くの児童が博物館を訪れてくれたことが非常に嬉しいです。是非この事業を継続させ、多くの児童が博物館により興味を持つてくれることを願います。

開催にあたっては、博物館友の会や大学生など多くのボランティアの方々、あるいは周辺の学校からもご協力をいただいで無事に終了することが出来ました。併せて感謝申し上げたいと思います。



土器づくり

■事業案内

おまかせください 学びのお手伝い ～博物館をドンドンご活用ください！～

学芸第三課 佐々木 勝宏（主任専門学芸員）

例年5月と6月は県内小学校の遠足や、県外中学校の修学旅行で来館の児童・生徒の皆さんで大変賑わいます。

この時期に限らず、年間を通じて各団体の学習利用に対応しています。その一端をご紹介します。ご利用の参考にしてくださいと思います。

【申込み方法】

日程や人数がおおよそ決まりましたら、FAXで申し込みいただきます。申請者と当館担当者が連絡を重ねて、細部まで打ち合わせをします。

限られた貴重な機会ですので、こちらから学習内容の提案をし、出来る限りご要望にお応えしています。来館時間を有効に活用いただくお手伝いをさせていただきます。



東仙台小学校の記念撮影

【利用例】

小学3年生の「公共施設の利用の仕方」、小学4年生の「昔の暮らしを知る」、小学6年生の「郷土の歴史を学ぶなど」のテーマの割合がやはり多いようです。最近の例をあげたいと思います。

- ①少規模校の4年生から6年生が1台のバスで来館して、学年ごとのメニューを学習する。
- ②同一市町村の近隣数校の同学年が一緒に来館して、同じメニューを学ぶ。

③冬場に新6年生になる前の5年生が、日本の通史やいわての歴史について博物館で見学したり、調べたり、質問したりして、レポートをまとめ、学校で発表会をする。

④「森と水と生き物のつながり」、「在来種と外来種の特徴」、「絶滅危惧種になった理由」、「石ってどうやって出来るの?」、「八戸と盛岡の南部氏の関係は?」など学校が設定したテーマで学芸員が講義し、その後に関連する展示を見学する。

⑤ハイビジョン映像（岩手の自然や文化などに関するもの11本で、各15分以内。）の視聴と見学をセットにしてクラスごと順番に交替する。

⑥希望見学箇所のみ、解説員の展示解説を聴く。

⑦予め指定された数ポイントごとに小グループで展示解説を聴く。

⑧土器を実際に触ってみる。（縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器）

⑨考古、歴史、民俗、生物、地質の部門の学芸員から解説を聴いて、学芸員や解説員と質疑応答する。

⑩解説員の通覧解説を受けながら展示見学する。

⑪学校からの一人一問カードに博物館側で答えを記入して来館時に返却し、ポイントを直接解説する。その後、近いテーマの興味関心を持つ子どもたちに班を編成してもらって、質疑応答を重ねる。

⑫総合的な学習で「稲について学習してきたので、総まとめを博物館でしたい。」というご要望に対しては、弥生時代の耕作についての解説後、実際に石包丁で穂首を刈ってみて、税制の変遷や検地と度量衡について学び、実際に枡で量ったり、千

歯扱や唐箕などを使って脱穀したりしました。



脱穀の様子

【ご相談ください】

教科・科目に限りませんのでご相談ください。

自由見学の良さもありますが、せっかくのチャンスですので、より学習効果を高めるために学習目的に対応した解説付見学を勧めています。

昼食会場を芝生広場にされて、食事の終わった生徒さんが古民家や植物園・岩石園を見学するという学校もあります。

中学生や高校生の職場訪問や、職場体験も受け入れております。

「バックヤードを含めて、施設全体を見学したい。」「博物館の様々な仕事を見学し、体験してみたい。」というようなことでも時間や目的に応じて、出来得る限り対応しております。

【学習利用のほかにも】

学校だけにとどまらず、PTAの研修旅行や子ども会、自治会などでもご利用ください。喫茶室もございますし、芝生広場や古民家や教室での昼食場所としてご利用いただけます。

詳しくは当館ホームページをご覧ください。